

佐藤渡辺の横浜合材工場で伊藤忠エネクスと連携

使用電力7%削減

自家消費型太陽光導入

佐藤渡辺は、カーボンニュートラル（CN）に向けた取り組みの一環で、共同企業体として運営に参加している横浜合材工場（横浜アスコン、神奈川県横浜市）に、伊藤忠エネクスの自家消費型太陽光発電サービス「TERASE Lソーラー」を導入した。写真。6月1日から運用を開始



平均で使用電力は約7%削減、CO₂排出量は約48ト削減となる見込み。同サービスは、伊藤忠エネクスが工場、倉庫などの屋根に太陽光発電設備を設置し、発電した電力を顧客に自家消費してもらう定額サービス。顧客は、初期費用とメンテナンス費用がかからず、契約期間（15～20年前後）に定額エネルギーサービス料を支払う。契約期間終了後は、サービス料が不要で太陽光発電設備を使用できる。2050年の脱炭素社会実現に向け、CO₂排出量、エネルギーコストの低減を実現するビジネスモデルとなる。これまで、ガソリンスタンド1件、ホームセ

ンター2件の実績があり、道路舗装会社では佐藤渡辺が初となる。同工場では、806平方メートルの屋根に、太陽光発電パネル287枚を設置した。佐藤渡辺は、環境方針の下、さまざまな環境負荷低減に取り組んでいる。同工場ではこの他、加熱アスファルト合材の製造時に、カーボンニュートラルLNGを使用した都市ガスを採用し、さらなるCO₂排出量の低減を図るなど、環境対策を強化している。今後、伊藤忠エネクスとさらなる連携強化を図るとともに、CNに向けた取り組みを引き続き展開し、持続可能な社会の実現に貢献する。なお、伊藤忠エネクスのその他の環境商材で、小牧合材工場（小牧アスコン、愛知県小牧市）では、GTL（ガス・ツー・

リキッド）燃料を使用している。

